

登録コード	SF705300	開講年度	2026						
授業題目	アドバンス演習・実験・実習				担当教員	浦井 暖史			
英文授業名	Advanced Exercise for Environmental Science				副担当				
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	集中・不定期		対象学年	3年	
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考	物循環学コース教員が分担して実施する．専門・選択単位
信大コンピテンシー	該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】				
	21Sカリ								
	【2020～2022年度カリラム対象】自然科学における知識と理論を深く学び、その法則性を理解し説明できる力。				専門知識に基づく論理的な思考力と，分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応力と実践力．				
					・基礎的な科学リテラシーを獲得と専門分野への関心を高める． 物質循環学に関わる分野の野外調査や実験・実習を通じて，基礎的な科学リテラシーを獲得するとともに，自らが興味をもつ専門分野への関心を高め，学習意欲の向上を目指す．特に，能動的に探求する姿勢を育てたい．				
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生								
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース								
(4)授業の概要	地形・地質学，気象学，動・植生生態学，湖沼学，湖沼生態学などの調査や実験，実習などを通じて，物質循環学のさまざまな側面を体験して，各種の調査・研究能力の習得を図る．								
(5)授業のキーワード	能動的学修，物質循環学，野外調査，科学リテラシー								
(6)授業計画	1) ガイダンス：実習の目標，進め方，日程などについての紹介 2) 授業計画の提示 後期期間中に受講者間で日程を調整して実施する．また、土日を利用した調査を行う予定である．								
(7)成績評価の方法	実習および調査の内容、理解度と目標に対する到達度を，おもにレポートの内容および実習への取り組み態度で測り，成績を評価する．得点の比率が60%未満で不合格，60～70%で可，70～80%で良，80～90%で優，90%以上で秀と評価する．								
(8)成績評価の基準	各実習の目標に対する到達度を総合的に評価する．目標に対して，十分に達成できている場合から最低限の基準（60%以下）に達しない場合までであることになる．								
(9)事前事後学習の内容	実習の前に事前学習会をもち，課題と予習すべき内容を明示する．実習終了後は，成果と課題を議論し，不十分な部分について補修を行い，レポートへ反映させる．								
(10)履修上の注意	実習内容は年度で異なる．掲示に注意して，興味を持った実権・実習を受講すること． 移動手段や危険性によって参加可能人数に制約があるので（定員は5-6名以下であることが多い）早めに申し込むこと．								
(11)質問、相談への対応	各担当者が，直接あるいは電子メールで随時受け付けます． 2026年度履修希望者は，登録時に浦井にe-mail（uraia@shinshu-u.ac.jp）でその旨を連絡してください．								
【教科書】	資料を配付する．必須の教科書がある場合には事前に紹介し，購入を求める．								
【参考書】	参加者へ必要となる文献を紹介する．								